

今月は**キャプティブ** を取り上げます。

甚大な災害、事故は自らの予防策を見直す契機になります。地震保険加入率が地震発生後高くなるのは顕著な例です。

キャプティブの議論が学会でなされたのも東日本大震災後、企業のリスクマネジメント、また財政面での対策と言えるリスクファイナンスの議論がなされる中で、考えられる手法の一つとして議論されました。

昨年から続く感染症の脅威。多くの企業の業績、経営に影響が出ています。以前お伝えしましたが、保険業界でも感染症に関連する損害の支払い、金融市場の不安定さによる間接的な影響などが影を落としています。

様々なリスクの脅威が高まっている中、リスクを自ら管理し、必要な補償を確保していく手段である、自家保険会社、キャプティブの活用を考えてみてはいかがでしょうか。